

解説

◇このワークシートのねらい

のいち動物公園ではユーラシアカワウソ、コツメカワウソ、ツメナシカワウソと3種類のカワウソを展示しています。同じ「カワウソ」ですが、それぞれに特徴があります。じっくりと見比べてみてください。

3種類のカワウソを比較展示しているのは当園だけです。

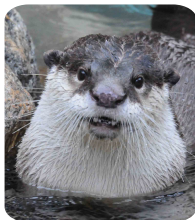
それぞれのカワウソの名前を書いてみよう！

正しい組み合わせになるように線をつないでみよう

カワウソは食肉目イタチ科に属しており、現在13種類が確認されています。ラッコもカワウソの仲間です。絶滅危惧種に指定されている種類も多く、ニホンカワウソは高知県須崎市で確認されたのを最後に2012年絶滅種に指定されました。

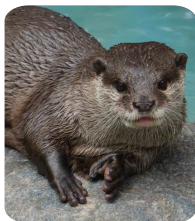
ツメナシカワウソ

ツメナシカワウソはアフリカ南部にすんでいます。3種類の中では体が1番大きく、名前のおり前肢の指にはツメがありません。水かきが小さく、片手で器用にエサを持つことができます。日本では3園館でしか飼育されていません。



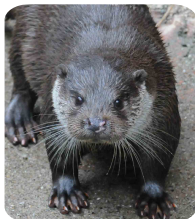
コツメカワウソ

コツメカワウソは東南アジア、インド～中国南部にすんでいます。群れで暮らし、ツメが小さいことから、コツメカワウソと名前がつけました。体が1番小さいカワウソで、日本ではペットとして人気が出たことなどから密輸が増え、問題となっています。



ユーラシアカワウソ

ユーラシアカワウソは主にユーラシア大陸にすんでいます。絶滅したニホンカワウソに1番近い種類のカワウソです。指先には鉤状のツメがあり、水かきも発達しています。



カワウソは何をしているかな？

カワウソの行動をじっくり観察してみましょう。

カワウソは陸上でも水中でもどちらでも行動することができます。手足が短く、細長い体をしているため、水の抵抗が少なく、泳ぐのにも適しています。

カワウソは好奇心が強く、遊ぶのが大好きです。展示場でも石ころを転がしたり、落ち葉をつついたり、と様々な遊びをしています。また、体の大きさのわりにはたくさんのエサを食べます。のいち動物公園では、展示場に出た直後や、お食事タイム（平日13:25～、土日祝11:10～）にカワウソたちがエサを食べている様子を見ることができます。器用に前肢でエサを持って食べたり、口で直接くわえたりと、種類によって食べ方も異なりますので、よく観察してみてください。

カワウソとビーバーのちがい

アメリカビーバーとカワウソはどちらも泳ぎが得意ですが、全く違う種類の動物です。よく見てみると、ビーバーの方が体が太く、尾も平たい形をしているなど違うところも多いのですが、動物公園では間違われることもあります。教科書にも登場するビーバーの方が、子どもたちにとってはなじみがあるのかもしれないですね。この機会に違いを比べてみてください。

アメリカビーバー げっ歯目ビーバー科

北アメリカにすんでおり、木をかじってダムや巣を作ることで有名です。木の皮や葉を食べる草食性の動物で、カワウソのように魚を捕まえたりすることはありません。げっ歯目とはネズミの仲間のことで、一生歯が伸び続けます。

◇まとめ

動物をじっくり観察することで新たな発見があると思います。その発見が、動物に興味を持ち、正しく理解するきっかけになるとと思います。

このワークシートについてのご意見、ご感想がありましたら遠慮なく動物公園までお知らせください。またアンケートにもご協力をお願いします。

〒781-5233 高知県香南市野市町大谷738
高知県立のいち動物公園 ワークシート係
TEL 0887-56-3509 FAX 0887-57-5251